

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A～C)に答えよ。〔解答記号 ～ 〕(配点 40)

A 次の は、個人企業である長崎商店(会計期間は1か月)の11月中のすべての簿記上の取引とそれ以外の企業活動を示したものである。 にもとづいて、次ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。

11月中のすべての簿記上の取引とそれ以外の企業活動

11月1日：現金¥500を元入れして営業を開始した。

〃日：月額¥24の家賃で店舗を借りる契約をむすんだ。

2日：当座預金に現金¥200を預け入れた。

5日：鹿児島商事から事業用の土地¥62を買い入れ、代金は月末に支払うこととした。

8日：福岡商会から商品¥180を仕入れ、代金のうち¥120は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。

10日：山口商事から仲介手数料¥3を現金で受け取った。

12日：熊本商店から商品¥35(原価¥22)の注文を受けた。

17日：12日に注文を受けた商品すべてを熊本商店に納品し、代金は同店振り出しの約束手形で受け取った。

20日：事業主が、商品(原価¥4)を私用に使った。

23日：大分商店に商品¥110(原価¥85)を売り渡し、代金のうち¥65は同店振り出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。

25日：11月分の家賃¥24を現金で支払った。

30日：5日に買い入れた土地代金¥62を現金で支払った。

問 1 のうち、簿記上の取引でないものは つある。また、負債が増加する取引は つ、収益が発生する取引は つある。空欄 ~ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 次の(1)・(2)の空欄 ~ , にあてはまるものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。また、空欄 ・ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

(1) 商品売買取引の記帳方法として分記法と3分法がある。分記法は、 勘定(資産の勘定)と()勘定(収益の勘定)の二つの勘定科目を用いて記帳する方法である。分記法によると、商品を購入したときに、その商品の仕入原価を 勘定の借方に記入し、売り渡したときに、その商品の仕入原価を 勘定の貸方に記入するとともに、商品の売価と仕入原価との差額を()勘定に記入する。他方、3分法は、 勘定(資産の勘定)・ 勘定(費用の勘定)・ 勘定(収益の勘定)の三つの勘定科目を用いて記帳する方法である。

(2) 長崎商店は、商品売買取引の記帳方法として分記法を採用している。 によると、11月中に計上された長崎商店の収益の総額は¥()、費用の総額は¥ である。これら収益と費用の差額¥()は、11月中に長崎商店が獲得した利益であり、これは の増加を意味する。

~ , の解答群

- | | | | |
|------|-------|---------|--------|
| ① 現金 | ② 負債 | ③ 資本 | ④ 収益 |
| ⑤ 費用 | ⑥ 商品 | ⑦ 売掛金 | ⑧ 繰越商品 |
| ⑨ 仕入 | ⑩ 販売費 | ⑪ 商品売買益 | ⑫ 売上 |

簿記・会計

B 次の(1)～(6)は、個人企業である岐阜商店の取引を仕訳したものである。空欄
 ～ にあてはまる取引を、次ページの解答群のうちから一つずつ
 選べ。

		【仕 訳】		【取 引】
(1)	(借) 仕 入 50	(貸) 当座預金 50		<input type="text" value="サ"/>
(2)	(借) 仕 入 50	(貸) 売掛金 50		<input type="text" value="シ"/>
(3)	(借) 買掛金 50	(貸) 現 金 50		<input type="text" value="ス"/>
(4)	(借) 買掛金 50	(貸) 支払手形 50		<input type="text" value="セ"/>
(5)	(借) 当座預金 49 手形売却損 1	(貸) 受取手形 50		<input type="text" value="ソ"/>
(6)	(借) 不渡手形 51	(貸) 受取手形 50 当座預金 1		<input type="text" value="タ"/>

サ～タの解答群

- ⑩ 商品を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- ⑪ 商品を仕入れ、代金は約束手形を振り出して支払った。
- ⑫ 商品を仕入れ、代金は他店振り出しの約束手形を裏書譲渡した。
- ⑬ 商品を仕入れ、代金はかねてより売掛金のある得意先あてに為替手形を振り出し、同店の引き受けを得て、仕入先に渡した。
- ⑭ 買掛金を支払うために、小切手を振り出した。
- ⑮ 買掛金を支払うために、他店振り出しの小切手を仕入先に渡した。
- ⑯ 買掛金を支払うために、かねてより売掛金のある得意先あてに為替手形を振り出し、同店の引き受けを得て、仕入先に渡した。
- ⑰ 買掛金を支払うために、約束手形を振り出した。
- ⑱ 得意先から受け取っていた約束手形を銀行で割引き、割引料を差し引かれ、手取金は当座預金とした。
- ㉑ 売掛金を得意先振り出しの小切手で回収し、ただちに当座預金に預け入れた。
- ㉒ さきに裏書譲渡された約束手形が不渡りとなったので、裏書人に償還請求をし、このために要した諸費用を小切手を振り出して支払った。
- ㉓ さきに不渡りとなり裏書人に償還請求をしていた約束手形について、請求額と支払期日後の利息を裏書人振り出しの小切手で受け取った。
- ㉔ さきに裏書譲渡した為替手形が不渡りとなり、償還請求を受けたので、支払期日後の利息とともに小切手を振り出して支払った。

簿記・会計

C 沖縄商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、複合仕訳帳制度を採用しており、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳、および売上帳を特殊仕訳帳として用いている。資料1は、特殊仕訳帳のうち4月の現金出納帳、および仕入帳を、資料2は、4月の売掛金元帳、および買掛金元帳を、それぞれ示したものである。同社では、各特殊仕訳帳から総勘定元帳の各勘定へ月末に直接合計転記を行っている。

これらの資料にもとづいて、次ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

資料1 4月の現金出納帳、および仕入帳

現金出納帳

平成 ×年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平成 ×年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
4	4	当座預金	引き出し	㊦	50	4	1	仕入	群馬商店	✓	310
	16	売上	福島商店	✓	350		8	()	()	㊦	35
	28	売掛金	福島商店	売2	()		13	前払金	愛媛商店	6	120
							25	給料	4月分	33	90
							29	買掛金	群馬商店	買2	()
				()	400					()	520
	30		()	4	()		30	()	12		()
	"		()	1	()		"	()	1		()
			前月繰越	✓	()			次月繰越	✓		()
					1,000						()

仕入帳

平成 ×年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
4	1	現金	群馬商店	✓	310
	15	支払手形	愛媛商店	11	80
	17	前払金	愛媛商店	6	()
		買掛金	13日内金 掛 け	買1	70
	19	買掛金	群馬商店	買2	90
	26	買掛金	群馬商店	買2	()
			掛 け 戻 し		160
	30		()	12	160
	"		()	31	()
	"		()	㊦	20
			()		()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料2 4月の売掛金元帳、および買掛金元帳

売掛金元帳			買掛金元帳		
鳥取商店			愛媛商店		
		1			1
(省 略)	4/21 当座振り込み	78	4/8 現金支払い	35	(省 略)
	24 売上値引き	30	23 小切手支払い	210	
			29 小切手支払い	300	
福島商店			群馬商店		
		2			2
(省 略)	4/4 当座振り込み	66	4/26 返 品	20	(省 略)
	28 現金受け取り	180	29 現金支払い	130	
	30 当座振り込み	150			

問1 資料1の空欄チ～テにあてはまるものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

チ～テの解答群			
① ✓	② 1	③ 4	④ 12
⑤ 31	⑥ 売1	⑦ 売2	⑧ 買1
⑨ 買2	⑩ 買2/31	㉑ 12/31	

問2 次の(1)～(3)の空欄ト～ハにあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (1) 4月17日に愛媛商店から仕入れた商品の金額は、¥トナ0である。
- (2) 3月から繰り越された現金勘定の残高は、¥ニ又0である。
- (3) 月末に現金出納帳から買掛金勘定の借方に合計転記する金額は、¥ネノハである。

簿記・会計

第2問 個人企業である愛知商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、5伝票制を採用しており、商品売買取引は、すべていったん掛けとして処理している。ただし、仕入諸掛については、出金伝票または振替伝票に記入している。また、補助簿として受取手形記入帳、支払手形記入帳、商品有高帳、仕入帳、および売上帳を用いている。なお、愛知商店はA商品のみの売買を行っており、払出単価の決定は先入先出法による。

次の資料1～資料4にもとづいて、23ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

〔解答記号 **ア** ～ **ニ** 〕(配点 30)

資料1 6月中の一部の取引(①～⑤)について起票された伝票(略式)

①	<u>仕入伝票</u> 6月3日 奈良商店 200	<u>振替伝票(借方)</u> 6月3日 買掛金 120 (奈良商店)	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月3日 支払手形 120
---	---------------------------------	--	-------------------------------------

②	<u>仕入伝票</u> 6月4日 奈良商店 ア 0 (6月3日分仕入戻し)
---	---

③	<u>売上伝票</u> 6月6日 () 150	<u>振替伝票(借方)</u> 6月6日 受取手形 50	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月6日 売掛金 50 (イ)
---	--------------------------------	------------------------------------	---

④	<u>売上伝票</u> 6月8日 () ウ エ (6月6日分売上戻り)
---	---

⑤	<u>仕入伝票</u> 6月11日 奈良商店 カ キ 0	<u>振替伝票(借方)</u> 6月11日 買掛金 150 (奈良商店)	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月11日 売掛金 150 (横浜商店)	<u>出金伝票</u> 6月11日 買掛金 50 (奈良商店)
---	--	---	---	--

⑥	<u>売上傳票</u> 6月15日 三重商店 600	<u>振替伝票(借方)</u> 6月15日 受取手形 110	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月15日 売掛金 110 (三重商店)	<u>入金伝票</u> 6月15日 売掛金 140 (三重商店)
	<u>仕入伝票</u> 6月20日 奈良商店 360	<u>振替伝票(借方)</u> 6月20日 買掛金 360 (奈良商店)	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月20日 支払手形 360	
⑧	<u>売上傳票</u> 6月24日 横浜商店 ()	<u>振替伝票(借方)</u> 6月24日 受取手形 350	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月24日 売掛金 350 (横浜商店)	
	<u>仕入伝票</u> 6月26日 キ 200	<u>振替伝票(借方)</u> 6月26日 買掛金 110 ()	<u>振替伝票(貸方)</u> 6月26日 受取手形 110	<u>出金伝票</u> 6月26日 仕入 20 (引取費)

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料2 6月中の受取手形記入帳、および支払手形記入帳のすべての記録

受取手形記入帳

平成 ×年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出日		支払期日		支払 場所	てん末			
							月	日	月	日		月	日	摘要	
5	30	(省)	180	約手	(省)	横浜商店	横浜商店	5	30	6	30	(省)	6	30	入金
6	6	(省略)	50	為手	(省略)	長野商店	横浜商店	6	6	6	25	(省略)	6	25	入金
	15	(省略)	110	約手	(省略)	三重商店	ク	6	15	7	20	(省略)	6	26	ケ
	24	(省略)	350	約手	(省略)	横浜商店	横浜商店	6	24	7	31	(省略)			

支払手形記入帳

平成 ×年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	受取人	振出人	振出日		支払期日		支払 場所	てん末			
							月	日	月	日		月	日	摘要	
5	30	(省略)	100	約手	(省略)	奈良商店	()	5	30	6	30	(省略)	6	30	支払い
6	3	(省略)	120	約手	(省略)	奈良商店	コ	6	3	7	3	(省略)			
	20	(省略)	360	約手	(省略)	サ	当 店	6	20	7	31	(省略)			

簿記・会計

資料3 6月の商品有高帳

		商品有高帳								
(先入先出法)		(品名) A商品						単位：個		
平成 ×年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	30	12	360				30	12	360
	3 奈良商店	20	10	200				{ 30 20	{ 12 10	{ 360 200
	4 奈良商店戻し				5	()	()	{ () ()	{ 12 10	{ () ()
	6 ()				10	()	()	{ () ()	{ 12 10	{ () ()
	8 ()戻り	5	()	㊦㊦				{ () ()	{ 12 10	{ () ()
	11 奈良商店	20	()	()				{ 25 15 20	{ 12 10 11	{ 300 150 220
	15 三重商店				{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()
	20 奈良商店	30	12	360				{ 20 30	{ 11 12	{ 220 360
	24 横浜商店				{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()	{ () ()
	26 京都商店	20	1㊦	()				{ ㊦㊦ () 20	{ () () ()	{ () () ()
	30 次月繰越				{ () ()	{ () ()	{ () ()			
		125		()	125		()			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料4 6月の仕入帳, および売上帳

仕 入 帳				売 上 帳			
平成 ×年	摘要	内訳	金額	平成 ×年	摘要	内訳	金額
6	3 奈良商店 掛け A商品 20個 @¥10		200	6	6 () 掛け A商品 10個 @¥15		150
	4 奈良商店 掛け戻し A商品 5個 @¥()		()	8	横浜商店 掛け戻り A商品 5個 @¥()		()
	11 奈良商店 掛け A商品 20個 @¥()		()	15	三重商店 掛け A商品 40個 @¥15		600
	20 奈良商店 掛け A商品 30個 @¥12		360	24	横浜商店 掛け A商品 30個 @¥㊦㊦		()
	26 京都商店 掛け A商品 20個 @¥10	200		30	総売上高		1,290
	引取費現金払い	20	220	"	()		()
	30 総仕入高		()		()		()
	" ()		()		()		()
	" ()		()		()		()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

問 1 資料 1, 資料 3・資料 4 の空欄 ア, ウ～カ, シ～ツ にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 1・資料 2 の空欄 イ, キ・ク, コ・サ にあてはまるものを, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

イ, キ・ク, コ・サ の解答群		
① 当 店	④ 横浜商店	② 三重商店
③ 京都商店	⑤ 奈良商店	⑤ 長野商店

問 3 資料 2 の空欄 ケ にあてはまるものを, 次の解答群のうちから一つ選べ。

ケ の解答群		
① 入 金	② 割 引	③ 裏書譲渡

問 4 次の(1)・(2)の空欄 テ～ニ にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (1) 6月15日の売り上げについて, その商品売買益は¥ テ ト 0 である。
- (2) 6月の月初の支払手形勘定残高が¥ 100 であったとすると, 月末の支払手形勘定残高は¥ ナ ニ 0 である。

簿記・会計

第3問 香川商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、岡山支店と徳島支店をもっており、支店の会計は本店の会計から独立している。なお、支店間の取引の記帳については、本店集中計算制度を採用している。また、本店は、高知商店に商品販売の一部を委託している。

次の資料1～資料5にもとづいて、28ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示してある箇所を除き、すべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 ア～フ〕(配点 30)

資料1 本店の残高試算表(未記帳事項および決算整理事項は反映していない)

本店残高試算表
平成×9年3月31日

借 方	金 額	貸 方	金 額
現金	200	支払手形	310
当座預金	1,522	買掛金	331
受取手形	370	仮受金	72
売掛金	430	社債	2,000
繰越商品	100	貸倒引当金	10
積送品	50	建物減価償却累計額	1,440
有価証券	1,000	車両運搬具減価償却累計額	900
建物	4,000	資本金	12,500
車両運搬具	2,000	売上	2,800
土地	8,000	受取手数料	45
岡山支店	385		
徳島支店	261		
仕入	1,820		
支払家賃	180		
旅費交通費	70		
社債利息	20		
	20,408		20,408

資料2 本店の未記帳事項(支店の未記帳事項はない)

- (1) 資料1の積送品 ¥ 50 について、平成×9年3月10日に、販売委託先である高知商店から次の売上計算書(金額の単位は円)が到着していたが、この件について記帳していなかった。手取金は、売上計算書の到着に先立って当座預金に入金されていたが、内容が不明であったため、仮受金 ¥ 72 として処理していた。ただし、本店は、委託販売による売り上げを手取額で計上している。なお、これ以外に、当期における委託販売に関する未記帳事項はない。

<u>売上計算書</u>			
総売上高			¥ 77,000
諸掛			
保管料	¥	500	
雑費		650	
手数料		<u>3,850</u>	<u>5,000</u>
差引手取金			<u>¥ 72,000</u>

- (2) 平成×9年3月15日に、営業車のうちの1台(平成×4年4月1日に取得原価 ¥ 500 で購入)を ¥ 35 で売却し、売却代金は、当座預金に入金していたが、この件について記帳していなかった。なお、車両運搬具についての減価償却費の計上は、定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年)により、これまで適正に行われてきた。売却した車両について、1年分の減価償却費を、売却の処理に先立ち計上する。
- (3) 平成×9年3月31日に、額面 ¥ 1,000 の社債が償還期日をむかえ、小切手を振り出して、利息を支払うとともに償還していたが、この件について記帳していなかった。なお、償還した社債は、平成×6年4月1日に、発行価額 @ ¥ 100(金額の単位は円)、年利率1%、利払い年2回(9月30日と3月31日)、償還期限3年の条件で発行したものである。

簿記・会計

資料3 本店の決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は、¥ 150 である。
- (2) 受取手形および売掛金の期末残高に対して、3%の貸し倒れを見積もる。
なお、貸倒引当金の設定は、差額補充法による。
- (3) 有価証券 ¥ 1,000 は、売買を目的として平成×8年12月1日に購入した広島商事株式会社発行の株式1,000株であり、決算にあたり、時価に評価替えする。なお、同社株式の時価は、1株あたり ¥ 980(金額の単位は円)であった。
- (4) 建物および車両運搬具について、減価償却費を計上する。ただし、建物は、平成×0年4月1日に購入したものであり、定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は20年)により減価償却費を計上する。なお、平成×9年3月15日に売却した営業車以外の車両は、平成×6年4月1日に購入したものであり、減価償却費の計上は「資料2」の(2)と同じ方法および条件による。
- (5) 未償還の社債について、未払利息を月割計算で計上する。なお、この社債は、平成×4年1月1日に、発行価額 @ ¥ 100(金額の単位は円)、年利率2%、利払い年2回(6月30日と12月31日)、償還期限8年の条件で発行したものである。

資料4 未達取引等

- (1) 岡山支店から徳島支店に送った商品 ¥ 30 が、徳島支店に未達である。なお、本店は、この通知を受け、適正に処理している。
- (2) 岡山支店が回収した本店の売掛金 ¥ 100 の通知が、本店に未達である。なお、この取引の整理にともない、本店の貸倒引当金も「資料3」の(2)に示した方法にしたがって適正額に修正する。
- (3) 徳島支店で取り立てた岡山支店受取分の手数料 ¥ 4 の通知が、本店と岡山支店に未達である。
- (4) 徳島支店において立替払いした本店従業員の出張旅費 ¥ 15 の通知が、本店に未達である。

資料5 合併貸借対照表と合併損益計算書(本店の当期純利益には岡山支店と徳島支店の当期純利益は含まれていない)

合併貸借対照表

平成×9年3月31日

資産	本店	岡山支店	徳島支店	合計	負債・資本	本店	岡山支店	徳島支店	合計
現金	200	120	100	(支払手形	310			(
当座預金	777			省	買掛金	331	100	181	省
受取手形	370	140	90	省	未払社債利息	1,000			省
売掛金	430	210	160	省	社債				省
"(未達分)	()				貸倒引当金	777	7	5	
商品	()	70	20		"(未達分)	()			
未達商品	()		()		建物	10,970			
有価証券	()				減価償却累計額	2,970			
建物	4,000				車両運搬具	2,470	54	36	
車両運搬具	1,500	150	100		減価償却累計額				
土地	8,000				資本金	12,500			
岡山支店	385				本店		485	220	
"(未達分)	+ 770			略	"(未達分)	()	+ 770		略
"(")	()				当期純利益	228	44	28	
徳島支店	261				"(未達分)	+ ()	+ ()		略
"(未達分)	+ 77				"(")	- 777			()
"(")	()								
	()	690	()	()		()	690	()	()

合併損益計算書

平成×8年4月1日から平成×9年3月31日まで

費用	本店	岡山支店	徳島支店	合計	収益	本店	岡山支店	徳島支店	合計
期首商品	100	50	40	(売上高	2,877	894	820	(
棚卸高				省	期末商品	()	70	20	省
仕入高	2,970	720	630	略	棚卸高				略
"(未達分)	()		30		"(未達分)			30	略
売上総利益	1,052	194	170						
	()	964	870	()	売上総利益	1,052	194	170	()
支払家賃	180	120	120	(受取手数料	45	2		(
旅費交通費	70			省	"(未達分)		+ ()		省
"(未達分)	+ ()								
社債利息	770								
有価証券	770								
評価損									
固定資産	777								
売却損	()	5	4						
貸倒償却	()								
"(未達分)	- 77								
減価償却費	()	27	18	略					略
当期純利益	228	44	28	略					略
"(未達分)	+ ()	+ ()		()					()
"(")	()								
	1,097	()	170	()		1,097	()	170	()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

簿記・会計

問 1 資料1 ~ 資料3 にもとづいて、資料5 の空欄 ア ~
ウ , キ ~ セ , ツ ~ ネ , ハ ~ フ
にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料4 にもとづいて、資料5 の空欄 エ ~ カ ,
ソ ~ チ , ノ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄に
マークせよ。